

2022.01.16. 教会の対立を防ぐ

ヘブル人への手紙 13 章 17 節

JD ファラグ牧師

さて、おはようございます。第二礼拝によるこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は「聖書預言・アップデート」で、第二礼拝は説教で、神の御言葉を一節ずつ学びます。現在はヘブル人への手紙を学んでいます。ヘブル人への手紙は、もうすぐ終わります。今日の聖書箇所は 13 章になります。ヘブル人への手紙は、もうすぐ終わります。今日の聖書箇所は 13 章になります。17 節からスタートし、17 節の終わりまで読み進めていきます。そう、今日は一節だけなんですよね。その理由はすぐにわかると思います。今日の長い文を読むのに、ついてきていただける方は、ご起立をお願いします。無理な方は、座ったままで結構です。ヘブル人への手紙の著者は、聖霊によってこう書いています。

ヘブル 13

17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。

私はこの一節で、12 週間のシリーズ説教をするつもりですが、よろしいでしょうか？ 冗談です、そんなことはしません。祈りましょう。よろしければ、ご一緒にどうぞ。

天の父よ、あなたの御言葉に感謝します。これはあなたの御言葉であり、すべての御言葉は理由があつてここにあるのです。確かに奮い立たせられ、時には叱責、励まし、指標のためでもあります。今日、私たちの前にあるこの聖句もそうです。主よ、今、私たちが切実に必要としているのは、あなたの聖霊が私たちの教師となつて、あなたが御言葉の中で、また御言葉を通して私たちの人生に語りかけてくださることです。明らかに、この聖句が私たちの聖書にあるのは理由があり、それが何であるかを聖霊に示していただく必要があります。そして主よ、聖霊が示されるとき、私たちは聖霊に、聞く耳、見る目、そして、おそらくもっと重要なのはあなたの御言葉を受け取り、心に留めることです。ですから、主よ、今日、あなたの御言葉で共に過ごす時間を祝福し、私たちに語りかけてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日は、教会の体としての私たちのあり方についてお話ししたいと思います。「教会の体」これが重要なキーワードです。その理由はすぐにわかるでしょう。教会の体は、争いを防ぎ、争いが引き起こす、不必要な損害を避けることができます。教会の体は、争いを防ぎ、争いが引き起こす、不必要な損害を避けることができます。教会の体は、争いを防ぎ、争いが引き起こす、不必要な損害を避けることができます。この一節だけを教えることは、牧師としての自己満足に見えるかもしれませんが、問題の真実は、この一節は私たち全員の益のためにあるということです。この問題に入る前に、著者がこの問題に関して私たちに励ましている根拠について、もっと理解する必要があると思います。そのためには、7 節に戻らなければなりません。ヘブル人への手紙 13 章 7 節です。彼は、指導者について書いています。ヘブル人への手紙 13 章 7 節です。彼は、指導者について書いています。

ヘブル 13

7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。

さて、なぜそのような理解をすることが重要なのでしょうか？ それは、ヘブル人への手紙の著者が話している指導者たちは、神の御言葉を教えている、という前提があるからです。そして、神の御言葉を教えているだけでなく、敬虔な生活をしているのです。これは、先に進む前の前提条件です。なぜなら、著者は主に服従していない指導者に私たちが服従するように勧めたりは出来ないからです。使徒パウロならこのように言うでしょう。

『私がキリストに従うように、私に従いなさい。私がキリストを真似るように、私を真似なさい』と。つまり、私がしていることを、あなた方の手本としなさいということです。私の生き方、私の人生の実は、神に従う生き方からくるものです。そして、ヘブル人への手紙の著者は言っています。「指導者を覚え、彼らの人生を見るように」と。彼らの人生を見てください、それがあなたに語りかけるはずですよ。

「何を教えられたかよりも、何を得たかが重要だ」と言われています。言い換えれば、これは確かに子育てにも当てはまります。私たちは、子どもたちに主の道を教え、主を畏れ、戒めをもって訓練しようとしています。しかし、私たちが何度も子どもたちに言葉に出して言っていること、その実は、

「私のやっていることを真似ないで、私の言うことをしなさい」ということです。それはね、親にとっては悪夢ですよ。あなたが教えようとしているとき、子どもがあなたの生活を見て、「でもお父さん、あなたはどうなの？」「そんなこと、していないでしょう？」「あなたは私にそれをやれと言っている。まずあなたがそれをやって、私があるから学ぶというのはどうでしょう。」子どもは親の真似をするものです。私たちの娘が本当に小さかったときのことを覚えています。これは遠い昔、はるか彼方の土地、カイルア（ハワイ）でのことです。それは、私の人生のある時期のことでした。第一に、その頃の私はエネルギーがあり、ただテレビに向かって、叫んでばかりいました。フラストレーションと、腹立ちゆえです。もちろん、牧師が発するものとなれば、いつも正義の怒りですよ。そうでしょう？ 私は、「いや、何だって！？」と、テレビと言い争っていたのです。それは良い結果を生みますよね？ 私の大切な娘が、私を見て、真似をし始めたのです。かわいい声で、テレビに向かって叫んでいるんですよ（笑）。

私は、ああ主よ、本当に申し訳ありません。私は娘に何を教えてしまったのだろう。言いたいことはこれです。指導者は、敬虔な（神に従う）人でなければなりません。私たちは、敬虔な指導者でなければなりません。だからこそ、ヘブル人への手紙の著者は、指導者への信頼と服従に関して、この節で述べることができるのです。自分の人生に与えられた神の権威に服従することは、服従している指導者への信頼度に比例するのです。名誉は与えられるが、尊敬は獲得するものだと言われています。指導者がその尊敬と信頼を得たとき、その下にいる人たちは服従します。その指導者への信頼がゆえに、服従はいつもその後続くのです。そして、悲しいことに、その逆もまたしかりです。指導者が部下の信頼と尊敬を得ていないとき、常に争いが起こるのです。興味深いのは、ヘブル人への手紙の著者が、ここの教会の対立に関して、彼らを戒めていないことです。このヘブル人のクリスチャンたちは、何の争いもしていなかったようですね。だからこそ、著者は、彼らに争いのない状態を継続するよう励ましたのでしょう。もっといい言い方をしましょう。教会では、平和と調和のための環境を作らなければなりません。そして、これからここで話しするコリント教会のような争いはなかったようです。だから、それを防ぐために、今やっていることを続けるようにと、励ましているのです。さて、争いの絶えない教会にいると思う人のために、これについては「聖書・預言アップデート」で別の文脈で話しましたが、できる限り愛を込めて言いたいと思いますが、もし牧師が神の御言葉を説いていない教会にいるのなら、離れなさい。出なさい。そして、あなたが服従し、尊敬できる教会と牧師を見つけに行きましょう。その牧師は、神に従う生活をしてい

て、信者から信頼を得ていて、そして、神の御言葉を教え、羊を養う人です。こんにちの世界で起こっていることを考えると、それは簡単なことではないと思いますが。だからこそ、私はあなたを励ましたいのです。これは使徒の働き 2 章ですが、教会を見つけることができないなら、家庭礼拝を始めましょう。

「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

(マタイ 18:20)

初代教会ではそうしていました。ただ神の御言葉を読み、あるいは、オンラインで礼拝を見ている多くの人々がいますが、それが彼らの教会であり、聖餐式や交わりを共にするのです。

「使徒の働き 2 章 42 節」の 4 つの柱、彼らは使徒たちの教えを忠実に守っていました。つまり神の御言葉、祈り、聖餐/パンを裂き、交わりを持つことです。この 4 つです。だからこそ、ヘブル人への手紙の著者は、彼らや私たちに、ある人たちの習慣のように、自分たちが”集まる/組み合わせる”ことを忘れてはならないと、戒めたのです。キリストの体から離れることは、自分自身を切り捨てることになるのです。あなたは事実上、キリストの体を傷つけているのです。あなたは、信者の体として共に集まり、共に組み合わせられなければなりません。それで体が機能するのですから。また、そのことについては、もう少し詳しくお話ししましょう。それでは、このような基本的なことが理解ができたところで、次のステップに進み、この勧告の「何」の背後にある「なぜ」を見ていきたいと思えます。このような基本的なことが理解ができたところで、次のステップに進み、この勧告の「何」の背後にある「なぜ」を見ていきたいと思えます。つまり勧告は、みことばを教え、敬虔な生活をし、神に従う模範となる指導者たちに従い、彼らを尊敬し、その権威に服従することです。そして、彼らの重荷にならないように、彼らの喜びとなること。それは、あなたのためにもなるからです。それが、勧告の「何をするか」の内容です。しかし、私たちは見方を変え、今度は「なぜ」に目を向けた方が良いでしょう。なぜこれがそんなに重要なのか？

なぜ私たちは、神が私たちに勧め、命令していることをしなければならぬのでしょうか？ それは 3 つあります。まさに典型的な、3 つのポイント説教ではありませんか？ 4 つ考えようとしたのですが、4 つ目は作り出さないといけないので...。2 つに絞ろうとしましたが、実際には 3 つあって... 3 つです、いいですね？ 3 つですすめます。3 つの「なぜ」。この 1 節の中で、そのすべてが、この原則の重要性を語っています。そして、これは指導者の益のためではなく、すべての人の益のためであることを覚えておいてください。というわけで、まずは指導者について、次に信者について、そして 3 番目に教会全体についてお話しします。先ず最初の「なぜ」です。

「指導者はたましいを見守り、責任を負う」それが理由です。ヤコブの手紙第 3 章 1 節。

ヤコブ 3

1 私の兄弟たち、多くの人が教師になってはいけません。(その理由はこうです) あなたがたが知っているように、私たち教師は、より厳しいさばきを受けます。

ここでは、たましいを扱っているのです。私たち牧師や神の御言葉を教える教師が、日曜日の朝に行うこと、私たちの特権として、神の御言葉を教えるとき、私たちが扱っているのは、単なる生と死ではなく、永遠に続く生と死なのです。かなり深刻なことです。そして、すべての牧師が、神に行うように召されたことで、何を行ったかについて、弁明しなければならない日が来るでしょう。だから、私たちはもっと厳しく裁かれることになるでしょう。そして、ここからが本題なんです、ある牧師の表現が好きです。私たちが天に着いた時、私たちは皆、その大いなる終わりの日に、弁明をすることになります。私たち(牧師)には、別の列が用意されています。いや、確認しました。ヤコブがそう言っているのです。「牧師」

と書かれていて、私はその列に並ぶことになります。とても長い列になるでしょうね。とてもゆっくりと進むでしょう。あなたは別の列に並ぶことになりますが、そこでは厳しく裁かれることはありません。ですから、通過する際には、私に手を振ってください... (笑) あなたは私を見て、

「誰だかわからない、私の人生で会ったことのない人だ。」と思うでしょう。そして、にわとりが鳴きます。しかし、とにかく、いや、私たちは、もっと高い責任を負わされることになります。私たちは、もっと厳しく裁かれることになるでしょう。なぜなら、私たちは神の群れのたましいを見守り、監視するように任務を与えられ、召されているのですから。それは崇高な使命です。そして、それは重大な使命であり、私はとても深刻にとらえています。使徒の働き 20 章 25 節では、使徒パウロは、そこにいる兄弟姉妹に会うのはこれが最後になると、分かっていました。そこで彼はこう言います。

使徒の働き 20

25 今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることがないでしょう。

26 ですから、今日この日、あなたがたに宣言します。私は、だれの血に対しても責任がありません。

27 私は神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせたからです。

他の翻訳では、神の勧告のすべて、神の御言葉のすべて、とされているものもあります。そしてパウロはこう言っています。これは勧告です。

28 あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

使徒パウロは、エゼキエル書に記されていることを念頭に置いていたことは間違いありません。預言者エゼキエルは、見張り役、指導者、いわば群れを守る人たちに、控えめな表現ですが身の毛もよだつような、警告を発しています。脅威が迫っているのを見て、人々に警告しなければ、彼らの血の責任はあなたにあると言っています。彼らに警告しなかったので、私はあなたに責任を負わせる。

使徒パウロがここで言っているのは、「私は血から解放されている、私には誰の血の責任もない」ということです。それを裏返してみましょう。見張り役として、指導者として、牧師として、教師として、もし、あなたが人々に警告し、彼らとその警告を聞かなかつたとしても、あなたには血の責任はありません。それは彼らの責任です。これで、私にはプレッシャーがなくなりました。なぜなら、私が弁明するとき、私は躊躇しなかったからです。そうでしたかね？ 毎週このようなことがありますよ。私は考えてしまいます。「ああ、主よ...私はそこに立って...『もう大丈夫、すべてうまくいくから大丈夫ですよ。皆でハグをしましょう』と言っても良いですか？」駄目です。エレミヤの時代も、イザヤの時代も、エゼキエルの時代も、「平和だ、平和だ」と言っていた人たちがいました。しかし、平和ではありませんでした。私が思い出すのは... 彼の名前はミカヤです。彼を知っている人はあまりいません。しかし、神は、ヨシャファテとアハブが同盟を結んで戦いに行くときの記録に彼の名前を記録する必要があると、お考えになりました。(II 歴代誌 18 章 参照) そこでアハブは、すべての預言者を呼んで、「我々は戦いに勝てるだろうか。」と問いました。アハブに雇われていたすべての預言者たちは、彼が聞きたいことを話すだけだったので。そのための報酬なのです。だから彼らは皆、アハブに、「あなたは攻め上ってください。戦いに勝ちます。すべてがうまくいきますよ。」と。「あなたは勝利するでしょう。主の名のもとに出て行きなさい。」ヨシャファテは、「ちょっと待て、セカンド・オピニオンを得ることはできないのか。」と言いました。「他に預言者はいないのか？ この人たちは、あなたが聞きたいことを話しているだけだ。彼らは、聞

くべきことを教えてくれない。」私はアハブの反応が大好きです。ああ、好きというより、実際に考えてみると、ユーモラスですね。彼がヨシャファテに言うに、「一人いるが、私は彼の根性が嫌いだ。」彼は実際にそう言っていると思います。「彼が私に反する預言ばかりするので、彼を憎んでいる。」と。実際、ミカヤはそのために牢獄に入っています。ヨシャファテは、ミカヤの言うことを聞いてみようと思いました。そこでアハブは、彼を牢屋から出すために部下を送ります。部下たちはミカヤのところへ行きます。彼らはミカヤに、「いいか、何が起きているのか教えよう。預言者たちは皆、アハブ王が聞きたいことを話した。ヨシャファテはあなたの預言を聞いたがっている。アハブ王は、あなたを連れ出すために私たちを送られた。あなたはアハブ王の前に出たら、他の預言者たちが言ったのと同じことを彼に言いなさい。」ミカヤは、「わかったよ、何でもいいよ。」という感じです。彼は実際に、皮肉を込めてそのようにしています。彼はアハブとヨシャファテの前に引き出されました。そしてミカヤは問われて、こう預言します。「ええ、あなたは攻め上って勝利を得なさい。ところで、昼食は何ですか？」アハブはその言葉に反応しました。当然、ヨシャファテもです。アハブはヨシャファテに向かって、「ほら、私が言ったとおりだろう。」見てください、彼がどれほど皮肉で、おどけているのか。「ミカヤ、真実を言いなさい。」「あなたは真実を知りたいのか？」と言って、ミカヤは真実を伝えます。基本的に、「あなたは戦いで死ぬことになる。」とアハブに言います。「楽しい夜をお過ごしください。」それが真実です。そして、アハブはどうしたか？ ミカヤを牢獄に戻します。そして、アハブは、「私が戻ってきて、この預言が間違っていることを証明するまで、彼を外に出してはならない。」と言うのです。しかし問題があります。預言は間違っていなかったのです。彼は真実を語っていたのです。で、どうなるのでしょうか？ アハブは戦いに行き、ミカヤが言ったとおりに戦死しました。エレミヤは...イザヤ書が終わったら、あと6章ありますが...イザヤ書の後に何が来るか知っていますか？ エレミヤです。彼は愛情を込めて「涙の預言者」と呼ばれています。そしてここで、彼は神の裁きを預言し、人々に警告するように召されました。しかし、誰もそのことばに耳を傾けませんでした。それはとてもつらいことでしたが、彼は神から、神が彼の唇に語らせる言葉を語れ、と言われていました。人気が出ないことは承知の上で。実際には、人気がないだけでなく、拒絶されます。そして、彼らが拒絶しているのは、エレミヤではありません。神を拒絶しているのです。しかし、彼は警告しました。彼には血の責任はありません。エゼキエルの手にも、イザヤの手にも血の責任はありません。それはすべての預言者に言えることです。そして新約聖書になると、最愛の使徒パウロの手にも血の責任はありません。なぜなら、一人一人の牧師、指導者、教師が弁明を行い、より厳しい基準で裁かれる日が来るからです。さて、私は喜んで...今度は、皆さんのことを話しましょう。(笑) 私は牧師である前に、まずクリスチャンです。ご存知であることを願います。私は、まずキリストにある兄弟です。もし私があなたの牧師であるならば、私にはとても名誉なことです。しかし、私は何よりもまず、キリストにあるあなたがたの兄弟です。これは私たち全員のためです。頑張ってみます。私を含めた、すべての人のためです。いいですか、どうか.....お付き合いください。

「クリスチャンとしての私たちは、喜びにも、重荷にもなりえる。」

クリスチャンとして、教会の体として、あなたは、問題にもなりえることを理解していますか？ それは木曜日の夜の聖書の学びですが、「私が問題である」というタイトルにしました。このタイトルはどうでしょうか？ 私が問題なのです。なぜなら、神には問題があらわれるからです。神に問題があるのではなく、問題は神ではなく、私が問題なのです。クリスチャンである私たちが問題となり、問題を引き起こし、重荷となり、トラブルメーカーとなることがあるのです。そして、それは教会の体を混乱させ、次にお話

しする、対立や争い、分裂をもたらしてしまうのです。体をバラバラにすることはできません。体は結合されなければなりません。さて、コリント人への手紙第一を読んだとき、一緒にいた人たちにとっては、なんというか、すごい書でしたね。私たちは乗り越えました。Tシャツを買うべきです。”私たちは第一コリントのサバイバー” コリント人への手紙第二は、少し違ってしています。しかし、聖霊に促された使徒パウロは、コリントのクリスチャンたちを叱らねばなりませんでした。それは残酷なものでした。つまり、この教会には多くの対立があったのです。実際、私たちはすぐにここで見ることになりませんが、特に聖餐式に関しては、コリントのクリスチャンの何人かが病気になったり、死んだりするほどひどかったのです。なぜなら、彼らはキリストの体を見極めることなく、キリストの兄弟姉妹に対して間違っただけの扱いをしていたからです。別の言い方をすれば、彼らが病気になったり、死んだりするほどにまでなっていました。ああ、先走りすぎですね。その話はまたあとで。

しかし、コリント人への手紙第一、12章に注目していただきたいのですが、14節から読み始めたいと思います。ここで、使徒パウロは、体がどのように機能するのか、分裂せずに一致している健全な信者の体について、とても詳しく説明しています。

I コリント 12

14 実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。

15 たとえ足が「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。

16 たとえ耳が「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。

17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら（まず、それは気持ち悪いでしょう）、どこでにおいを嗅ぐのでしょうか。

彼が何を言おうとしているのかが、わかりますか？

18 しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。

19 もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。

20 しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。

目が手に向かって「あなたはいらない」と言うことはできないし、”え、いらないのですか？” 想像してみてください。もし、誤ってハンマーで親指を叩いてしまったらどうなるでしょう？ 体はどうなりますか？ 大丈夫かと、親指にキスしたり、愛したり、こすったり、祈ったりします。ところで、体の一部が傷つくと、体全体がそれを感じてしまうのではないのでしょうか？ つまり、それは私の足が、親指を打ったのに、足が、「おい、何が起こったんだ？ 足まで感じたぞ！」「いや、足、お前ではなく、親指だよ。」体の一部分が傷つくと、体全体がそれを感じます。体が一つになっていればの話ですが。

I コリント 12

20 しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。

21 目が手に向かって「あなたはいらない」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたがたはいらない」と言うこともできません。

少々ユーモアを許してください。演じてみます？ 頭が足に向かって「お前なんか要らない！」と言うのです。バタン！ 倒れます。「ああ、私は必要ないんですね？ 私はあなたを支えているのですよ、頭さん。あなたには、私が必要です。私のことは好きでないかもしれませんが、私は同じ体の一部なので、

必要なのです。」

隣に座っている人を見ないでください。足なのか、手なのか、目なのか、耳なのか、何なのかわかりません。ある人は、「私はキリストの体の脇だ。ただ臭いだけだ。」と言います。そうか、それでもいいんです。それでも体の一部です。これは聖霊にお任せしましょう。

22 それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。

23 また私たちは、からだの中で見栄えがほかより劣っていると思う部分を、見栄えをよくするものでおおいいます。こうして、見苦しい部分はもっと良い格好になりますが、

24 格好の良い部分はその必要がありません。神は、劣ったところには、見栄えをよくするものを与えて、からだを組み合わせられました。

25 それは、(聞いてください) からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです。

26 一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。

つまり、両方に作用するのです。そして、コリントの教会で何が起こっていたかを知っていますか。つまり、彼らは互いに激しく争っていたのです。そして、いわゆる派閥を組んだのです。派閥とは何のことか分かりますか？ ここに小さな派閥があって、「こっちは私たちのグループだ、あなたは私たちのグループには入れません。」そして、ここにはまた別のグループ。「私はこのグループの一員です。」

そしてこちらにもキリストの兄弟姉妹がいますが、どうやら彼らは必要とされていないようです。彼らは愛を感じていないようです。ところで、12章の次にはどんな章が来るか知っていますか？ 深い話になりますが、13章です。13章の内容はご存知ですよ？ 愛の章なのです。しかし、私たちが考えているような愛の章ではありません。

「あなたたちコリント人は、愛が何であるかを知っていますか？ それは愛ではありません。愛とは...」それが、コリント人への手紙第一の13章です。パウロは彼らを叱責しているのです。彼らは互いに愛がありませんでした。彼らは互いに不当に扱っていました。そして、これがキリストの体なのです。そしてまた、次に見るように、先走りはしたくないのですが、彼らは実際にキリストの体を虐待していたのです。私たちは皆、同じ体であるキリストの体の異なる部分だからです。そして、イエスは頭なのです。だから、もし...もう一度親指をとって、親指を叩いてみましょうか。想像できますか？ 親指を叩きます。

「叩かれて砕かれて当然です。血を流して死んでしまえばいい。」うわー、愛はどこにあるのですか？ 私は体の一部なんです。あぁ、それが彼らのしていたことです。ちょっとくだらない描写でしたね、もっといい表現があれば良いのですが。彼らはキリストの体を不当に扱っていたのです。彼らは、自分たちが何でもないと思っている体の部分を不当に扱っていたのです。

「あなたは必要ありません。なぜ、ここにいるんだ？ 誰があなたを呼んだの？」そして、これが愛餐で行われていたのです。共にパンを裂く時です。そして、その中の何人かのクリスチャンは、想像してみてください、これらの祝祭日、現代の言葉で言うと、ポットラック(持ち寄り)、カルバリーチャペル・コリントで、彼らは食べることを許されていませんでした。そして、それが一週間の唯一の食事になった人もいました。なぜなら、彼らがイエスに従うと決めたとき、すべてを失い、仕事、家族、友人、勘当され、生活基盤を失ったのです。だから、教会での食事、ごちそう、ポットラックが、ある人たちの一週間の唯一の食事、本当の食事だったのです。そして、彼らは飢えていたのです。そして、彼らはお腹を

空かせていました。主は使徒パウロを通して、「待ちなさい、彼らは体の一部だ、あれはわたしの体です。」
「あなたはわたしの体を奪っている。体を見極めていない。あなたは体を不当に扱っている」と言われました。「あなたは自分のことを、必要以上に高く評価し、空想しているのです。あなたは、自分がキリストの体にとって必要不可欠な存在であると思込んでいます。なぜなら、結局のところ、自分が何者かであるように見ているからです。そして、ここにこの人がいるのに、あなたは彼らに食べさせず、食事に参加させません。」だから...、またしても、先走りましたね。だから、これから見るように、あのようなレベルにまで高まったのです。では、指導者、クリスチャンときて、そして、教会全体について話しましょう。これは3つ目、最後です。

「教会は、愛で一つになることができ、もしくは、対立して分裂することもできる。」
もし私たちが一つの体で一体化し、機能しているならば...ちなみに、今がチャンスだと思うのですが、ちょっといいですか？ 私が今まで聞いた中で、信者の体が共に組み合わせることの最も良い説明があります。時計とその時計のすべての部品を集めて、この説教壇に置くのです。ええと、何も機能しておらず、何も作動していないんです。これらの部品を組み立てなければなりません。複雑なバネや小さな部品がすべて一緒に機能して、それらが組み合わせる時に、ただ集まるだけでなく、組み合わせる時に、ひとつになるのです。そして、それらが一体となり、一緒に機能するのです。結合していない体内の細胞を何と呼ぶか知っていますか？ 癌です、癌なのです。そしてある意味、これは霊的な癌で、癌が人体で広がるように、体内で広がる可能性を持っているのです。だから、分裂という霊的な癌も、キリストの体全体に広がる可能性があるのです。そして、そうなるのは時間の問題なのです。それが今回の問題点です。これが本当に深刻な理由です。コリント人への手紙第一、1章10節。私が読むとき、皆さんも一緒に読んでください。使徒パウロの言葉として聞いてください。つまり、パウロは彼らに懇願しているのです。そして、彼はちょうどこの手紙を書き始めたところです。これは1章にあります。もちろん、元々の原稿や手紙には、章の区切りはありません。それらは後から加えられました。しかし、これは手紙の早い段階で、1章の10節に書いてあります。

I コリント 1

10 さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。

つまり、一緒に集まり、自分自身を皆と一致させ、分裂してはいけないと。あなたがたの間に分裂を起させないようにしなさいと、パウロは懇願しているのです。ところで、これは、あなたの使徒パウロに対するイメージが崩れてしまいますね。パウロは男らしく、泣きました。20章では、3年間、毎日、昼も夜も、ずっと泣いていたと書いてあります。パウロは彼らのために泣いたのです。なぜですか？ なぜなら、自分が去った後、自分たちの中から、羊の皮をかぶった狼のような者たちが出て来ると知っていたからです。そして、彼らは羊の群れを容赦なく荒らすと。パウロは彼らをととても愛していました。そして、もし分裂が許されるなら、彼らに起こることを知っていたから、彼らを守りたかったのです。さてこれから、ガラテヤ人への手紙5章15節を読んでみましょう。コリント人への手紙第一に戻ってきます。

ここで、使徒パウロが書いているのは、この手紙の最後の方です。これはガラテヤ人クリスチャンにとって問題であったようです。聖霊による彼の言葉を聞いてください、

ガラテヤ 5

15 気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの中で滅ぼされてし

まいます。

「あなたたちは何をしていますのですか？ こんなことを続けていたら、お互いに破滅してしまう。噛みつき、噂話をし、中傷し、喧嘩をし続けなら、お互いを破滅させることになります。」

何が悲しいかわかりますか？ 今読んだガラテヤ人への手紙第5章1節は、使徒パウロがそれを書くように促されて以来、この2000年の間に行われてきたものなのです。様々な形で展開されてきました。多くの教会が破壊されました。多くの牧師とその家族が、破壊されました。多くの教会が破壊されました。なぜなのか？ これが原因です。陰口、分裂、噂話。非常に興味深いことに、使徒パウロが食料品リストを作った時...何を言いたいかわかりますよね、肉の行いをリストアップしました。ガラテヤ人への手紙で、これらのことを行っているならば、あなたがたは決して天の御国には入れないと列挙し始めました。ローマ人への手紙には、このような食料品リストを書いています。私はそれをこう呼ぶことにします。このリストには、殺人なども含まれています。おお、それは理解できます。殺人、姦淫、性的不道徳、そして、ああ、噂話をすること。何ですって？ どうして殺人、姦淫、性的不道徳と同じリストに入っているんですか？ 噂話することが？ そうです。なぜ？ それは、キリストの体にとって、他のものと同じくらい、いやそれ以上に脅威となるからです。だから、そのリストに含まれているのです。箴言だったと思うのですが、ちょうどこの章について話していたところです。7章と言いたいところですが、6章かもしれません。ソロモンが聖霊によって、リストを書いています。主が嫌う6つのもの、主にとって忌み嫌うべき7つのことです。忌み嫌われる？ そう、この言葉は今、とてもよく使う言葉なんです。そうでしょう？ そのリストの7番目は何ですか？ 兄弟の間に不和をもたらす者。それは忌み嫌うべきことです。7番目の忌み嫌われることが不和を広げることである理由、殺人と同じリストに、噂話や中傷がある理由を示したいと思います。それには理由があるのです。ルシファーが不和を撒き散らして、自分を高めた時に、天国が分裂したのです。だから、天国でそれが起こりえたなら、地上でも起こりうるのです。「分裂させ支配する」という典型的なものです。実は、少し前にも同じタイトルのアップデートがありました。典型的な「分裂と支配」です。

イエスは「分裂した家は立ち行かない」とおっしゃいました。(マタイ 12:25 参照)

イエスは「分裂した家は立たないかもしれない」とはおっしゃいませんでした。いや、そうではなく、「できない、不可能だ」とおっしゃったのです。家が分裂されていては、立つことができない。体が分裂すれば、それは病んだ体であり、死んでしまうのです。細胞が分裂して互いにぶつかり合えば、互いに破壊し合うことになるのです。

さて、コリント人への手紙 第一 11章、この章は…、どう言っているのか分かりませんが、ただ、生き延びたことを覚えています。繰り返しますが、Tシャツを買わないといけませんね。

『私は第一コリント 11章を生き延びた』と書かれたTシャツを。すべての牧師と神の御言葉の教師が、つまり、背筋が寒くなるような思いをするのです。そして当然です。その章で使徒パウロは、もちろん愛を込めて最も強い言葉で彼らを叱責しているからです。つまり、愛、がなければわざわざ言いますか？ だからこそ、私たちは…考えてみてください、もし、神が私たちを愛しておられないなら、なぜわざわざ警告されるのでしょうか？

「ああ、食い尽くされ、破壊され、分断して欲しいのです。だから、どうぞ」と。違います。「わたしはあなたをととても愛しています。あなたが不必要にこんな目にあうなんて、耐えられません。だから、わたしはあなたを注意し、警告し、叱責し、矯正したいのです。なぜなら、あなたがこの道を進み続ければ、

破滅に至るからです。」こんなことが起こっていたのです。そして、これがコリント人への手紙第一 11 章に書かれています。そこで彼らは、愛餐と呼ばれる、みことばの教えの後に教会全体が集まって、一緒にパンを食べるということをしていたのです。そして、キリストの体であるパンと杯を祝い、記念する聖餐式でもあったのです。また、食事をするのもこの時でした。そして、彼らはお酒を飲み、この章に書いてありますから、家に帰ったら読んでみてください。でも、基本的に彼らは酔っ払っていました。つまり、これは発酵させたワインだったようです。彼らは晩餐会や宴会で酔っ払っていたのです。そして使徒パウロは彼らに

「そんなことは家でやりなさい。あなた方には、食事をしたり、酔ったりする家がないのですか」と言うのです。彼らは教会で大食いの酔っぱらいで、キリストの兄弟姉妹を排除していました。ある人はこんな風に言っていました。もう何年も前で初めて聞いたときは、少し言い過ぎじゃないかと思いましたが、しかし、よく考えてみると、なるほどと思いました。彼は、「キリストの体に重傷を負わせている」と言いました。かなり強い言い方なのは承知の上です。でもちょっと待ってください、彼らは体の一部で、彼らを切り離してしまうなら、それは重傷を負わせることではないでしょうか？ それを彼らはやっていたのです。それで、彼は 17 節と 18 節を書きました。この章全体が、…ワオ！ 良い表現ができませんが。しかし、彼はこう言っています。

1 コリント 11

17 ところで、次のことを命じるにあたって、私はあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが益にならず、かえって害になっているからです。

想像できますか？ あなた方が教会の団体として集まるとき、それはあなた方が善よりも害を及ぼしているのです。私はそんな教会には行きたくありません。冗談でしょう？ そして、彼は、まず第一に…、言い換えれば、ここではいくつかの事柄が起こっていたのですが、彼はこう言っています。

18 まず第一に、あなたがたが教会に集まる際、あなたがたの間に分裂があると聞いています。

ある程度は、そういうこともあろうかと思えます。そして、彼が書いている文脈の中で、彼らに語りかけるように「ところで、おじさん、おばさんは、どうしてあんなに病気になり、苦しみの床におかれたのか、不思議に思ったことはありませんか。どうしてあの兄弟、あの姉妹が最近亡くなったのか不思議に思いませんか。これがその理由です。」これが理由なのです。どうか聞いてください。そして、最後は良い言葉で締めたいと思います。それは良い言葉です。しかし…、どう言えばいいのでしょうか。私はただ…神は彼らを早く家（天）に連れて行かれました。彼らがキリストの体に脅威を与えたからです。そこで彼らは…彼らは天国にいます。しかし、彼らは…私たちがしていることに似ています。また癌の描写を使うことをお許しください。癌をどうするのか？ 癌が全身を殺し、広がっていく前に、それを取り除かなければならないのです。だから、彼らは死んでいったのです。神は彼らを家に連れ帰ったのです。なぜなら神は、体をとて大切にしておられたからです。「わたしは彼らを連れ出し、家に連れ帰り、癌を切り取り、脅威を取り除かなければなりませんでした。」それがこの教会で起きていたことです。分裂、争い、キリストの体を虐待し、キリストの体を見分けず、キリストの体を傷つけていたのです。彼らは体にとって恐るべき脅威となったのです。そして、主は…、途中で多くの警告があったことを私は確信しています。神はそのように忠実であられます。そうですね？ しかし、彼らは警告を聞き入れませんでした。まず彼らは病気になったようです。それから、ちょっと聞いてください。これは、誰かが病気になったり、死んだりしたとき、それは神の裁きだという事ではありません。私たちは墮落した世界に

住んでいます。この場合、この特定の状況では、それは神の裁きなのです。では、神はどうやって彼らの注意を引こうとしておられるのでしょうか？

「あなたはわたしの体を脅かす存在だから、苦しみの床に寝かせよう。それでも悔い改めず、体を見極めようとしないのなら、家に連れて帰らねばならなりません、なぜなら、あなたがわたしの体を脅かしているからです。」

それはかなり深刻ですよ？ 手短に、個人的な私の心からの気持ちをお伝えしたいと思います。本土の教会に、ある個人がいました。ヘブル人への手紙 13 章 17 節は、この個人のために書かれたのだと思います。彼らは知らなかっただけなのです。彼らは重荷でした。彼らはとても...彼女は多くの問題を引き起こしていました。そして、その信者の体への破壊は、恐ろしいものでした。それは本当に恐ろしいものでした。ええ、神は彼女を早すぎる不慮の事故で家に連れて帰られました。そして、彼女は癌を克服していたのです。癌の病床で、彼女はまだ悔い改めなかったのです。それで、神はご自分の体を守るために、彼女を家に連れ帰られました。私たちは天国で彼女に会うでしょう。それが、ここで起きていたことなのです。さて、皆さんの注意を引いたところで、私が今説教したこの説教は、主をほめたたえるものと言いたいのです。なぜなら、この信者たちの体に説教する必要があるような説教ではないからです。ただ、言ってもいいですか？ まず、ありがとうございます。皆さんのおかげで、牧会は喜びです。私の心を主は知っておられます。そして、実際にそれを言うことができる牧師はほとんどいません。皆さんのおかげで、牧師であることが、本当に喜びとなりました。そして何年もかけて、今に至りますが、2004年に聖書の学びを始めて、2022年になります。何年だろう？ 誰か助けてください、18年？ 17年？ 18年ですね。そうですね？ 気にしないでください、何年も前ですね。何年もの間、教会の分裂は一度もありませんでした。一度も教会が分裂したことはありません。この教会は本物です。皆さんはとても愛情深く、模範的な教会であり、皆さんはヘブル人への手紙 13 章 17 節の喜びとなる教会です。皆さんは私の働きを、喜び溢れるものとしてくださっています。私はただ、ありがとうございますと言いたいのです。誰かがここを訪れるのは嬉しいことですが、以前ほど多くはないですね。以前は、地球のあらゆる場所から、本当にたくさんの方が訪れてきたのです。その人たちは私のところに来て、「あなたの教会の人たちは、とても愛情深いですね」と言うんです。そして私は、彼らにこう返答するという名誉と特権を得たのです。そして、いつも言っていることですが、これは本心であり、何度も言いますが、主は私の心をご存じです。

「もし私がこの教会の牧師でなかったとしても、私はこの教会に通います。」私はあなたたちを愛しています。あなたたちは本物です。誰かがそのドアから入ってきたら、その人を愛し、歓迎します。相手が誰であろうと関係ありません。キリストの体の小さなつま先が玄関に入ってきたとき、あなたは彼らを抱きしめ、歓迎し、愛し、励まし、彼らのために祈るのです。私はそれが大好きです。私はそれを愛しています、皆さんを愛しています。そして皆さんにとっても感謝しています。神はこの教会を祝福しておられますよね？ 神はこの教会を長年に渡って守ってこられましたよね？ もしかしたら、私が部分的に見ているのかもしれませんが。ええ、私はこう言いたいのです。「世界一の教会だ」いや、本当にそうなんです。そして、私はその教会の牧師なのですよ。(笑) 天に着いた時、さっきの長い行列のことですけど、私がそこに行ったら...、「おお、あれが誰だかわかるか?!」—「誰?」「全世界で最高の教会の牧師をやっていた人だよ!」それでは、お立ちください。賛美チームに出てきてもらいます。いい言葉で終わりたいと言いましたよね？ そうですね... 一拍手—

ああ、主よ、本当に感謝します。この、あなたの教会、この、あなたの人々に感謝します。主よ、私の心

からあなたへ、この教会の牧師である私の特権に感謝しきれません。主よ、感謝します。この教会の体に感謝します。この教会で誰かが傷ついているとき、体全体がすぐそこに駆けつけるのです。主よ、そのことに感謝します。本当に感謝します。主よ、今から携挙までの間、あなただけがお出来になるように、この教会に、この尊い、尊い信者の体に分裂や脅威、危害、危険をもたらすものから守り続けてくださいよう、祈ります。主よ、感謝します。私たちはあなたをとても愛しています、イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7